

# コミュニケーションの楽しさを経験させる英語活動の展開 ～算数科の学習を生かした活動を通して～

小学校英語活動班 安藤 亜希弘 (小学校教諭)

## 自己課題設定の理由

身近な経験を生かした教材をもとに単元を構想し、友達や教師とかかわる活動を設定することで、発達段階に応じて児童が楽しくコミュニケーションを図ろうとするようになることを、研究を通して明らかにしていきたいと考え、本課題を設定した。

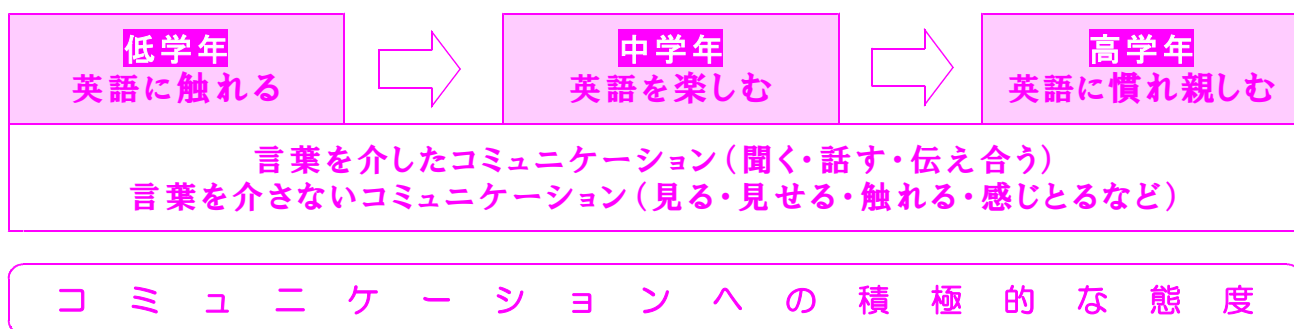
## 自己課題解決策

知識や経験を生かした活動を工夫していきたいと考える。例えば、他教科で学習した内容やこれまでの経験などに関連をもたせ、児童にとって身近で分かりやすい教材を提示するなど、児童が興味、関心をもちながら取り組む題材を工夫する。そのことで、コミュニケーションを楽しむ活動が充実していくと考える。

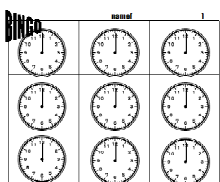
## 自己課題解決のための具体的実践

It's time  
for English class.

### ○コミュニケーションを図る態度のとらえ方



### ○コミュニケーションの楽しさを経験させる英語活動の工夫(第3学年で実践)



算数科で学習した足し算や引き算、時間や時刻の学習と関連付けた内容をもとに、全2時間の単元「数であそぼう (Numbers & Times)」を設定した。



## 授業づくりの3つのポイント

<b>聞く・話す活動の重視</b> 顔を見合わせて会話をする 児童同士がかかわり合う 表情や態度でも伝え合う	<b>経験を生かした活動</b> 学習内容が身近である 算数科との関連がある 習熟しているので安心できる	<b>授業展開の工夫</b> リラックスした雰囲気がある ほどよい緊張感がある リズムカルに活動する
---	---	---

## 実践の成果と考察

3年生の児童にとって英語活動での楽しみは、「英語を聞いたり話したりすることができた」「先生や友達と交流することができた」という喜びである。そのための手だてとして、算数科で学習したことを取り入れることで、これまでの経験を生かした活動ができた。足し算や引き算、時刻や時間は日常生活(学習や生活や遊びなど)でも児童に深くかかわっていることである。このようにコミュニケーションを図ろうとする態度を育てるために、他教科との関連を図りながら、児童の知識や経験を生かしたことは有効な手だてであった。